

令和4年度「安全優良職長厚生労働大臣顕彰」 安達茂幸（箕和田）さんが受賞

このほど、優れた技能と経験を持ち、担当する現場や部署で作業の安全を確保して優良な成績を挙げた職長※に、安達茂幸さん（所属事業所・小笠原建設株式会社）が「安全優良職長」として厚生労働大臣から顕彰されました。安達さんは勤続15年での受賞となり、現場では施工を担当しながら、職長として高い安全意識を持ち適切な安全指導を実践してこられました。この度の受賞、誠にありがとうございます。

※「職長」とは、事業場で部下の作業員を直接指揮監督し、作業の安全確保・遂行に責任を持ち、第一線において「安全」を実現する監督者のこと。

顕彰状を掲げる安達さん



襷に込める郷土の誇り― 第67回山形県縦断駅伝競走大会

第67回山形県縦断駅伝競走大会が4月27日から29日の3日間で開催され、県内11チームの選手たちが1本の襷に郷土の思いを込め、新緑の山形路 307キロを駆け抜けました。今大会には、白鷹町から4人の選手が長井西置賜チームで出走。今年も白鷹中継所には多くの方が集まり、地元選手に熱い声援を送りました。また、白鷹町役場から堀内郁哉選手（順天堂大卒）が、初日・2日目と出走。距離の長いタフな区間を力走し、チームを勢いづける走りを見せました。



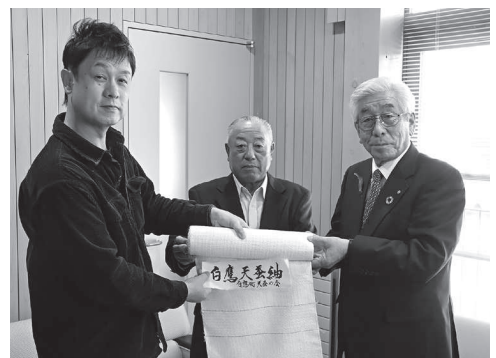
襷を受け、勢いよく飛び出す堀内選手（尾花沢中継所）

出走者…渡部功将選手（山口）、堀内郁哉選手（荒砥）
後藤光雅選手（荒砥）、菅陽翔選手（鮎貝）
メンバー…丸川快斗選手（鮎貝）
黒澤 叶選手（箕和田）

「しらたか天蚕の会」5反目となる天蚕紬の完成 自然な色合いそのままに―

しらたか天蚕の会（須田信一会長）では、5反目となる天蚕紬を完成させ、佐藤町長へ完成報告を行いました。

同会では、天蚕の飼育から繰糸作業、反物に仕立てる織り作業までのすべてを行い、天蚕紬の製作に取り組んでいます。天蚕は屋外で飼育することから天候や害虫の影響を受けやすく、作業は大変難しいものですが、会員の皆さんの努力と長年の経験で、3年がかりで繭を確保しました。反物は町内の小松織物工房（小松寛幸代表）が仕上げ、天蚕糸本来の色や光沢を残した、素晴らしい逸品が完成しました。



完成した反物、左から小松代表、須田会長、佐藤町長

深山和紙の継承にむけ― 新たな協力隊に鈴木麻友さん

5月1日、地域おこし協力隊の委嘱状交付式が町長室で行われ、新たに着任した鈴木麻友さん（山形市出身）に佐藤町長より委嘱状が交付されました。

鈴木さんは、東北芸術工科大学を卒業、在学中に学んだ和紙づくりに興味を持ち、本町の地域おこし協力隊に応募されました。着任後は、深山和紙振興研究センターを拠点とし、深山和紙の継承、保存に向けた活動を行っていきます。鈴木さんは「自宅の障子を和紙にしたい夢がある、そのぐらい大きな和紙を制作できれば」と今後への意気込みを語ってくれました。



佐藤町長より委嘱状の交付を受ける鈴木さん（中央）

鷹山地区拠点施設 「白鷹の杜たかやま」全面オープン

令和3年度から整備を進めてきた鷹山地区拠点施設及び除雪機械格納庫が完成し、4月12日に安全祈願祭並びに竣工記念式典が行われました。

この日は、地元役員や町関係者、設計・施工業者など約40人が出席。安全祈願に続いてテープカットが行われました。また、同施設の愛称も発表され、公募の中から「白鷹の杜 たかやま」に決定されました。

施設は床面積約645平方メートルで、地元産材を使った木造



①新たに竣工した鷹山地区拠点施設 ②事務室にはまきストーブを設置

平屋建て。交流体験ホールや研修室、加工室などを備えています。また、まきボイラーや太陽光パネルの設置など自然エネルギーの活用が特徴の施設となっています。さらに、敷地内には大型の除雪機8台を収容できる格納庫も併設され、大規模災害時の土石流に備えた擁壁の役割も担っています。

今後も、同拠点施設を中心とした地域コミュニティのさらなる活性化が期待されます。

全国大会出場 の栄光をたたえて 令和5年度白鷹町成績優秀者 激励金の交付

文化・スポーツ活動において優秀な成績を収めた全国大会への出場を果たされた方々に、町より激励金を交付しています。4月に交付させていただきます。今後はますますのご活躍をお祈りいたします。

上段：氏名（所属）
下段：大会名
菅 実莉 （白鷹中学校3年）
JOC ジュニアオリンピック カップ 第19回都道府県対抗全日本 中学生女子ソフトボール 大会



激励金を受け取る菅実莉さん

林業再生・拡大の第一歩として 白鷹町・物林・デロイト・トーマツ 協定締結

町では木材商社の物林（淡中克己社長）、監査法人のデロイト・トーマツグループ（木村研一CEO）と林業再生による地域活性化を目指す三者協定を結びました。

本町ではこれまで、緑の循環システム構築に向け、さまざまな取り組みを行ってきました。本協定は、「林業再生と林業振興による地域活性化を目的とするもの」であり、これらに関する事業や研究等、様々な分野に対して連携

をより一層強くしていくためのものです。

4月11日の締結式では、佐藤町長、淡中社長、デロイト・トーマツ リスクアドバイザーの岩村社長が協定を結び、それぞれの視点で「森林の価値を高め、安定的な仕事を事業として大きくするための第一歩にしたい」と、今後への抱負が述べられました。



▲町ホームページにも掲載しています